SABERFISH
背伸びをしたい乙女ココロ，彼の為に男の誘惑法とHテクニックを学ぶが…
「私のエッチい姿、見て下さいいいい！」
大好評！期間限定
SS付きCG集同封
カラダを売る制服女子
ナマハメ中出し
☆基本イベントCG20枚&
差分含め300枚超の大ボリューム！

あぁ、とうとう自分から男の人を誘って、ホテルに来ちゃった……
目隠ししてエッチするなんて、不安だけど、凄くドキドキする。
エッチな想像が頭の中を駆け巡って……アソコが……疼くッ！
「お待たせ！　おやぁ、目隠ししてお股拡げてただけで、もうパンティーがぐっしょりじゃないか？
どんなエッチな想像していたのか、話してごらん。全部やってあげるよ」
「んんっ！　そっ、そんなこと、恥ずかしくて……言えません」
「恥ずかしくて言えないような想像してたのか？　イケナイ子だなぁ」
興奮した男の人が近づいてくる気配……あぁ、どんなにエッチなことされちゃうんだろう？
フル…
フル…
ハァ♥
ハッ♥
ヒク
ヒク

ふぁ！　熱くて堅いモノがアソコに押し付けられて、ズルズル動いてる！　擦られるの、きもち。いいっ！
「春菜ちゃんのオマンコ、ヌレヌレのプニプニだね。さて、ここで問題です。何で擦られてるのか、わかるかな？」
「くぅうんっ、おっ、オチンチン……」
ブル…
あっ
ふぁぁ…
ハーン
ハーン
グッ
グッ
キュン♥
キュン♥
ブル…
「何だって？　声が小さくて良く聞こえなかったよ。もう一回言ってごらん」
「オチンチンっ！　ふぁ、んんんっ！　チンポですッ！」
アッ、あんっ！　アソコをズリズリと擦られながら、恥ずかしい質問いっぱいされて、一杯エッチなこと、口走っちゃった……男の人って、どうしてこんなにエッチなんだろう？

「ハァ、ハァ、春菜ちゃんに最後の質問です。
これからチンポの先から出るものは、何でしょう?」
「んは、あぅぅぅぅ……せっ、精液ですッ！　精液いぃ！」
「大正解！　イクよぉ！」
どびゅるるるっ！　びゅるうううっ、
びちゃびちゃびちゃぁぁぁ！
ひぁっ♥
ぁぁっ♥
あんっ♥ぁぁぁ…
ブビッ
ドクッ
ドプッ

「ぐしょ濡れパンティ、脱いじゃおうね……。うぅむ、相変わらずエロいオマンコしてるね」
「やっ、あんっ！　そんなに見ないで……」
目隠ししているせいなのか、男の人の視線をいっそう強く感じて、アソコがジンジン疼いちゃう。
顔に掛けられた精液の臭いも凄い……欲しい……奥に、挿れて欲しい！
「可愛いオマンコがもの欲しげにヒクヒクしてるよ。
チンポブチ込んで欲しいなら、エッチな声でおねだりしなきゃ！」
ダメ……恥ずかしいのに、アソコが疼いて、ガマンできない！　エッチなおねだり、しちゃうッ！
ひゃぐ…
ああっ…
ふあす…
ハー
ハー
フル…
フル…

「んは……ハァハァハァ……春菜の、トロトロに蕩けたはしたないオマンコに、熱くて堅いオチンチンを挿れてください。お願い……もう、ガマンできないッ！」
男の人にお尻を突き出して、恥ずかしいおねだりしちゃってる!?私、エッチになりすぎて、もう、どうなってるのか判らないよ！
「いいねぇ。もっともっと恥ずかしいおねだりしてごらん」
もう！　男の人ってホントにエッチ……でも、恥ずかしいセリフを口走ると、身体もどんどんエッチになって……気持ち良くなってくる。もう、どうなってもいい……
ブル…。
ブル…。
ハーハー
ハーハー
あぁ…！
して…

「エッチなおねだりたっぷり聞かせてくれたおれに、思いっきり犯して上げるからね！」
じゅぷっ、ずぷうぅぅぅぅ～ッ！
「ふわあぁぁぁぁ！　あっ、はぁぁぁぁんっ！」
ああぁぁっ！　入って……来た。男の人の……チンポ……凄いッ！オマンコの中、ズリズリ擦られて、子宮を突き上げられて……もう、イッちゃいそう！
きたぁ♥んっ♥♥
ビクッ！
ぬぷぷぷぷっ……
クリッ♥
ブルブルっ！
ブル
ブル

ぴしゃんっ！　ぱんっぱんっぱしいぃぃんっ！

「ひゅぐっ❤　んひぃ❤❤　ふぁ❤❤❤
お尻叩かれながらピストンされると、響くッ！
ダメぇ、感じ過ぎちゃうッ❤」

んあぁぁ!!!
ひぐっ

ハッ♥

シッシッ♥

「春菜ちゃんのお尻見てると、
ついつい叩きたくなっちゃうんだよね。
おお！　叩くたびにオマンコが
キュウキュウ締まるよッ！」

ヒクッ

ヒクッ！

パンッ

パチュン♥

チュッ♥

チュッ♥

ぐちゅ♥

ぐぷっ！

「あんっ❤　はぁぁんっ❤❤
そんなにされたら、私……私ッ！
やはぁぁぁんっ❤❤❤」
お尻叩かれると、気持ちいい衝撃が
子宮にまで伝わって……頭の中が真っ白に……
きもち……いい……イク……うう❤❤

「出すよっ！　春菜ちゃんの淫乱オマンコに、一杯種付けして上げるからね！」
ずびゅるるるっ！
どびゅるるるるるるるるっ！
びゅるうううっびゅるうううっ、
どぶどぶずびゅるるるっ！
「んあぁぁぁぁ……熱いのが……奥に……
いっ、イクッ……はぁぁうぅ……
イクんんん～ッ！」
お腹の奥に熱いザーメンが弾けて、
私……イッてる！
凄く……深い……こんなに深くイクのって……
初めて……意識……飛んじゃう……
んんぐぅ♥
ハァァ♥
ハッ♥
ぷしゅっ♥
ぴくっん♥
ひぐっ♥
んきゅうっっっ♥
ブピッ♥
ブルッ♥
ドプッ ドプッ

後日
「んは……ハァハァハァハァ……あふぅ……ん」
あの日以来、目隠しエッチの虜になっちゃった。
今日は、目隠しされた上に両手を縛られて……お口だけでご奉仕……
オチンチンの臭いが凄い、身体が熱くなっちゃう。
「ほおら、チンポはどこかなぁ。美味く咥えられたら、豪華賞品が当たります！」
男の人ってホントに意地悪。
咥えようとすると、逃げちゃう……でも、焦らされるのって、興奮する……
んは、あふ……あと、ちょっと……
んあっ♪
ヒク ヒク
プー♪
ぷくん♪
おちんぽぉ…♪
ンッ ンッ♪
ヒクッ
ピクッ！

ビクッ！
アルアル～
ヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴ!!!!
プシッ！
ヒクッ！
あんんっ!!!!
おしりぃ!!
ヒクッ
ピクッ
ヴヴヴヴィイイイイイイイ～ンッ！
「んあぁっぁああ❤❤❤❤
アッあっあうぅぅぅ～ッ！」
オチンチンを咥えようとしている私のお尻の中で、
バイブが震えて……
あぁぁ、感じるとこに当たってる！
当たってるよぉ！ 身体が強ばって、
オチンチンを追いかけられない
「どうしたのかな？ お口がお留守になってるよ。間もなくバイブがローリングを開始しまーす！」
うあぁぁぁ！ お尻の中がグリグリって掻き回されて……意地悪ッ！
でも、きもちいいっ！ お尻気持ちいいよぉ！

「あふ……あむ……ぴちゃぴちゃぴちゃ……れるっ……あんッ！
ダメぇ、逃げないで……はぅ、ちゅぱ！」
やっと捕まえたオチンチンは、凄く濃い味がして……
何日も洗ってないみたい。こんなの舐めさせるなんて……。
「やっと竿舐めに成功したね。ボーナスポイントで、バイブの振動がランクアップします！」
「えっ!? それってボーナスじゃなくって罰……ひうあぁぁぁンッ！」
お尻の中をビリビリ震わされて、恥ずかしい声が止められない
……オチンチン咥えなきゃ、このままお尻で狂わされる……あはぁん！
はむ…んぷっ♥
むぐっ…んぷっ…んん♥
ヒクヒク
ブー♥
ブッ♥ ブッ♥
ムグッ
プッ
ぷくん♥

「はぐんっ！　んむふうぅぅんっ！
じゅぽじゅぽじゅぽずちゅるるる～ッ！」
やっと、やっと咥えられた……
もう、もう放さないんだから！
喉の……奥まで呑み込んで……。
あぁぁ、ダメぇ、イクッ！
イクイクイクぅぅぅ～ッ！
「んきゅふうぅぅぅ～んんッ❤❤❤❤」
ぷしいっ！　ぷしゃぁぁぁぁぁ～！
ヒク
ヒク
びくん～
ヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴッッッ!!!!
ピッ!!
ブシッ！
プシッ！
んんっ!?
ピクッ！
ヒクッ
チププッ…。
「おやおや、チンポ咥えると同時に絶頂か？　よっぽど欲しかったんだな」
チンポ……もう、放さない……あぁ、アソコとお尻、同時に……イッ、イッてるぅぅぅ！
喉の奥までジュポジュポ音を立てて突かれて……私のお口、オマンコになっちゃってる……
「そろそろ出すよ、全部飲むんだよ！」
んぷっ？…
んんんぷっ

どぶどぶどぶどぶびゅるるるるうっ！
びゅるろろろっ、ずびゅろろろっ、どぶどぶどぶどぶくんっ！
「んぐ、んむ、ごくごくごくんっ！　じゅぱじゅぱじゅぱじゅぱじゅぱっ！」
「うひょぉ！　そんなに貪欲に吸われたら、チンポ汁が止まらないよ！」
もう逃がさないんだから！　全部、全部、吸い出して……
すっ、吸い出してやるんだから！　ずちゅずちゅずちゅじゅるるるるる～ッ！
びくん♥
ビクビク
んんっ!?
んぷっ？…
んんんぷっ♥
ドクドクッ
ゲポッ

ビクッ!
ヒクッ
ヒクヒク
ブシッ!
ピッ!!
プシッ!
むぐっ…んんぷっ!
んんっ…
フルフル
「くぉ! ギブアップだ! これ以上したら、キンタマまで吸い出されちまうっ!」
じゅぽんっ!
びゅるるるっ、びちゅるるっ、びゅくっ、びゅくっ、びゅるんっ
あぁんっ! お口から逃げ出したチンポが、射精しながら暴れ回って……ダメぇ、こんなに精液浴びせられたら、また、私もイッちゃうっ!
びくびくびくんっ! ぷしいっ、ぷしいいっ! ぷちゅるるるッ!
「ふあぁ❤ もっと❤❤ もっと出してぇ❤❤❤ びちゅびちゅびちゅ……れるっ、じゅるっ、ずちゅるるっ!」

「それじゃ、スケベな春菜ちゃん、また今度ゆっくりね♪」
別れ際に男の人に耳元で囁かれた言葉を聞いて、
今日の行為を反芻して股を濡らすのだった。

数日後
「んぁ……あはぁ、ねっ、ねえ、もう、こんなになってるの。
待ちきれない……早く、早く犯してください」
今日は少しだけ素直におねだりしてみる。だって、もう、オマンコが疼いて待ちきれないから……
「春菜ちゃんは会うたびに淫乱になっていくね。
そういう子は大好きだよ。クンクン……ああ、このフルーティーなマン汁の匂い。
キミのオマンコは最高にいい香りがするよ」
「はっ、恥ずかしいこと言ってないで……下さい……チ…チンポ、挿れてください」
下着が貼り付いてしまうぐらいぐしょ濡れになった股間をせり上げて
おねだりしているだけで、イッちゃいそう……
ハァ♥
ハァ♥
フル…
フル…
プリッ♥
プリン♥
ヒク
ヒク

「それじゃあ、脱ぎ脱ぎしましょうねぇ……おお、オッパイも良く実って、美味そうだねぇ」
「あんっ！　オッパイは後でいいですから、先に……おっ、オマンコの方を……可愛がってください」
「そう焦らないで、まずは食前のフルーツから。この揉み心地、しっとりと指に吸い付いてくるもち肌が堪らんねぇ」
焦らされるのは判っていたけど、身体が待ちきれなくなってる！意地悪しないで早く、オマンコ責めて欲しいのに……このじれったさも気持ちいい。私って、本当にマゾ…なのね……。
ハァ♥
ハァ♥
フル…
フル…
んんっ♥
そっち…じゃ…
ヒク
ヒク

「さあて、お待ちかねのオマンコはどうなっているのか……
うひょぉ、こいつはすっかり蒸し上がってるねぇ。ヌレヌレのトロトロで、食べ頃じゃないか」
「だからさっきから言ってるじゃないですか！　もぉ、焦らすのはいいから、早くぅ～」
あっ♥
そうですっ♥ああぁ…
ビクッ…
うわぁ、私って凄く甘えた声でおねだりしちゃってる……
こんな声でおねだりしたら、結城君もケダモノになって、私を犯してくれるかな？
あ、ダメぇ、想像したら、溢れちゃうッ！
ピクン…
ヒク
ヒク

ぷちゅ……くちゅるっ……。
「ひぁ！　あはぁんっ！」
「これが欲しかったんだよね？
くうぅ、先っちょ押し付けただけで、オマンコの入り口がチュパチュパしゃぶってるよ！」
「そっ、それが……チンポが欲しかったんです。
お願い、もっと奥に……オマンコの奥までブチ込んで！」
最高に甘くいやらしい声と表情で挿入をねだっちゃう。
もう、ガマンできなくて泣いちゃいそう……早く、早く子宮を突き上げてッ！
ビクンッ！
ハァ♥
ハァ♥
ビクッ
硬いの♥
あたって…♥
んぁ…っ♥
ぐいっ
ぐぐっ♥
ぐにっ

じゅぷぅぅぅっ！　ずぷぅぅぅぅっ！
来たッ！　やっと、やっとチンポが入って……来た……。もう抜かないで……ずっと、ずっとこのまま、わたしのオマンコを掻き回していて欲しい！
「そおら、こいつが欲しかったんだろう？　ハードに行くよッ！」
「あはぁんっ！　来てエェェ、オマンコが壊れるまで犯してくださいぃ！」
凄いッ、凄い凄いすごいぃぃ～ッ！　オマンコグッチャグチャに突き上げられて、掻き回されて……これっ、これが欲しかったの！
ビクッ！
ビクッ！
ハーハー
あぁぁ♥はいっ…♥
硬いの…きたぁ…っ♥
パンッ
パンッ

「春菜ちゃん、イクよっ！」
ずびゅうううううぅぅ～ッ！　どびゅぶちゅぶびゅるるるるるるるるッ！
びゅるうううっ、どびゅるるるるっ、ずびゅるうううっ、どぷどぷどぐじゅるるっ！
ビクン！
ハーハー
ハーハー
ピクン！
あはぁぁ！　凄く一杯出てるッ！
子宮に……流れ込んで、張り裂けそう！
もっとぉ、もっと一杯……注ぎこんでぇ！
「あぁぁぁ、あはぁぁ……あ、はぁぁん……すご……いっ……」
熱いチンポ汁がドクドクとオマンコの中に弾けて、溢れ出す快感……
こんなの、他のどんな遊びでも味わえない……セックス……最高……。
んあっ♥
ああっ♥あんっ♥ああ…
ブピッ
ドプッ
ドクッ

「春菜ちゃんがエロエロだから、凄く一杯出ちゃったよ」
「んふっ、嬉しい……でも、まだ一回だけだから、もっともっと一杯、出せますよね？」
チンポが抜け落ちた後のオマンコからドロドロと溢れ出てくる精液を見ながら、私は男の人に流し目を送る。……あ、今、ちょっと怯えた表情になった？
「もっ、もちろんさ。ちょっと一休みしたら、こってりと第二ラウンドやろうね」
「ええ。もし、一人で大変なようでしたら、お友達を呼んでもいいですよ、ふふふっ♪」
自分でも驚くほど素直に卑猥な言葉を発している事に少し戸惑いを感じながらも、精子にまみれた姿を想像するだけでエッチな気持ちにに呑み込まれていくのを感じていた…。
ハー♥
ハー♥
ビクン！
ビクビク！
いっぱいい……♥
ああっ♥
あんっ♥
ああ…
プッ♥
ブピュ♥
トロトロ…♥

今日はホテルのお部屋で目隠し羞恥プレイ……。
自分だけが見られているというのも、倒錯的で……身体が疼きます。
「殿方の皆さん、私のオマンコ、見て下さってますか？ほらぁ、もうこんなにぐっしょり濡れてしまっているんですよぉ…」
「ああ、バッチリ見てるよぉ～。」
「ふっくらオマンコの奥から、エッチな匂いのするお汁がトロトロ溢れているねぇ！」
ハーハー
ヒク
ヒク
あはぁ、目隠ししていても、殿方の視線がレーザー光線みたいに…オマンコにチリチリかんじられて、また、エッチなお蜜が溢れちゃう…

用意してきたおチンポ型ディルドウにアソコを擦り付けて、殿方を誘惑します。目隠しをしているせいなのか、オマンコがいつも以上に敏感になって……あぁ…

「…これから、このヌレヌレオマンコにディルドウを挿れてオナニーしちゃいます。近くでごらんになって下さいね……❤そう、息がかかるぐらい近くで…❤❤」

ヒクッ…

ヒクッ…

ソンッ

ハーッ♥

ハーッ♥

んんあぁっ

「言われなくてもかぶりつきで見てやるよ！モモちゃんのエッチなところの匂い、クンクン嗅いでやるぜ！」

「あんッ、そんなこと言われると、身体がウズウズしちゃいますよぉ」

オマンコが硬いディルドウを欲しがって、キュンキュン疼いて……これじゃあ、挿れただけでイッちゃうっ！

ズブブブッ…
ゆっくりと……ディルドウを奥まで呑み込んで……
本物のような熱い脈動は感じられませんけれど、
この硬さと大きさはなかなか効いて……お尻が跳ねちゃう！
ズチュッ！ グチュ！！ ズズッ！！！
「ンッ、あんっ！ はっ、入りました❤❤
私の腰使い、どう、どうですか？ 興奮、しますか？」
殿方の様子を見られないので、
反応を探りながら激しい上下動で
ディルドウオナニーしていると、
皆さんの荒い吐息が伝わってきて…
恥ずかしいけど気持いい……❤❤❤❤
ぴゅくん♡
ンンンッ…！ ひゃぐっ…♡
ハッ♡
ンッ♡
くっ…っっっ♡ ンッ♡
キュン♡
パンッ
パンッ
ピクン♡
ぱちゅっん！！ ぱちゅっ！ ぱちゅ！
「すげぇ貪欲にケツ跳ねさせやがって、
モモちゃんは超淫乱美少女だな！」
ゾクゾクッ…
「んはぁぁ、殿方の皆さんも、オナニー、
してらっしゃるんですね？ 興奮した鼻息と、
おチンポの臭いが漂ってきますよ」
気持ち良すぎて、腰が止められません……
殿方の荒い息づかいを聞きながら、お尻を激しく跳ねさせて、
エクスタシーが込み上げて来て、あっ❤ 飛んじゃうッ！
あぁ❤❤ イッちゃうッ！ イッちゃうぅぅッ❤❤❤

「モモちゃんのディルドウアクメ見ながら、オレたちも出すぞぉ！」
「おおおっ！　駄目だぁ！　エロ過ぎ！　だまらんっ！！　ううっ」
どびゅうううっ！　びゅるっ、びゅるっ、どびゅるるるっ、びゅるびゅるどばびちゃぁぁ～！
ぷしいいい～ッ！　ぷしゃぁぁぁ～ッ！
「んあぁぁん、殿方のチンポ汁浴びて、
イクッ、イキますうぅぅ～」
ぷるッ♥
きゅう…♥
はぇ♥
ハーッ♥
んんんっ♥
ぴくッ♥
ぴくッ♥
ぶるるッ♥
ぴくっん♥
プシャアアアア…
あぁぁ、恥ずかしいお汁が一杯出て、気持ちいい……
おチンポ汁の臭いで、頭がクラクラしてきて、本物が欲しい……
でも、今日は…我慢…❤

翌日

今日もホテルで目隠しプレイ。
複数の殿方の立派にボッキしたおチンポを見られないのが残念ですけれど、
…これはこれで妙な興奮が込み上げて来て、身体が火照ってしまいます。

ピクン…

んっ…♥

ハー♥

フー♥

ああ…♥

「モモちゃん、今日は一杯気持ちいいことしてあげるからね～」
「ワシなんかもう、何日も溜めてきて、カラカラになるまで犯してやるぞぉ！」

「はい、期待してますよ……フフッ♪」

まだ触れられてもいないのに、胸がドキドキして❤
アソコがもう、潤んで、早く触って欲しい

ジクジクッ…

殿方の手が、制服を慌ただしくまくり上げて、オッパイが剥き出しに……
この、ケダモノっぽい荒っぽさに興奮しちゃいます。

「んはぁ……私のオッパイ、どうですか？」

「最高だよ！　大きさも、色艶形もいい！　それにいい匂いがするなぁ」

「あんっ！　そんなに近くでクンクンしないで下さい……
乳首に鼻息がかかって、くすぐったいです。
ねえ、早くおチンポ❤　おチンポ挿れて欲しいです❤❤」

「オマンコをヒクヒクさせて誘われちゃ、オジサンもガマンできないなぁ。
それじゃあ、ズッポリいくよ！」

見られてるだけで濡れてしまったオマンコに、殿方の熱いおチンポが押し当てられて、
焦らすようにクチュクチュ擦り付けられると、気持ち良すぎて腰が跳ねちゃうッ！

じゅぷ……ずにゅうっ！
私の中に、たくましいおチンポが入って❤❤❤❤
この熱さと、ドクドク脈打ってる感触が堪らな…ない！！！
ぴくんっ
「はぁぁんっ！ 熱くて堅い……。
もっと、もっと激しくして下さって構いません…、
ハードなの……すっ、好きですから……❤」
ハッ❤
ハッ❤
あっ❤
んぁんっ！
ピュ
ピュッ❤
ぴくっ
ズチュ！ ズン！ ズン！ ズン！
「おほっ！ よおし、ガンガン行くよ！
オッパイもオマンコも、堪らない感触だよ！
一杯ズコズコ突いて上げるからね！」
「あんあんあんあぁぁんっ！ 届いてますっ❤
しっ、子宮にまで、おチンポぶつかってますッ❤❤」
私の挑発に興奮した殿方の腰使いは、まさに発情した獣のようで、
身体中を甘い衝撃が駆け抜けて、あぁぁ、これ、好きぃ！
この殿方のピストン、凄く激しくて、イッ❤ イクッ❤ イクッ❤
ズチュッ
ズズ
ズンッ❤

「くうぅぅっ！　この締めつけ、堪らないッ！　出すよッ！　どこに出す❤」
「はぁぁん、おっ、お口に……ブッカ…」
言い終わるよりも先に熱く粘着く液体が私の口に降りかかる
んんっ!?
んぷっ…
んんんん♥
ドプッ
ゲプッ
びくん♥
どぶどぶずびゅるるるるるっ！　びちゃびちゃびちゃぁぁぁ！
「んぁ！　んぶ……じゅる……ちゅぱっ……はぁぁ、温かなおチンポ汁、美味しい❤」
目隠しをし開いた口に容赦なくぶちまけられた熱いおチンポ汁んん…
じっくり味わいながら飲んでいると、幸せが込み上げてきちゃいます…
だめぇ…もっと、欲しい…我慢できぬぃ…

目隠しを取った私は、殿方にお尻を突き出して、挿入をおねだりします
んんっ…♡
あへぁ♡
ああ…♡
ハー♡
ハー♡
「今度は後ろから……ヌレヌレのオマンコ、一杯気持ち良くして欲しいです」
「モモちゃんのお尻はホントにエロいなぁ。」
「このマシュマロみたいに柔らかそうなオマンコの、菊の雷みたいなピンクのアヌスがこれまた最高ですなぁ！」
「ねっ、ねえ、見てるだけなんて、生殺しにされてるみたいで嫌ですよぉ。早く、気持ちいいこと、して下さいな」
「よおし、チンポよりも効くヤツをオマンコにブチ込んであげるよ！」
「おお、ってそんなもの持ち込んだんですが！まったく変態ですなぁ。」
興奮したオジサマが、バイブを手にして近づいて……♥
エッチな期待でオマンコが疼いて、もうガマンできない♥
ペル ペル…
キュン
ピクン
ピク ピク
プク…
フリ♡
フリ♡
ズク ズク…

ぬぷっ……ずぶぶぶっ！　ヴウイィィィィィィィ～ンンンンンッ！
「あはぁぁんっ！　すっ、凄いです。中で震えて……あぁぁんっ！
感じるところに当たってます、気持ち良すぎてオシッコ漏れちゃうッ！」
オマンコの中を強烈に振動させられると、
気持ち良すぎてオシッコが漏れちゃっ！
「漏らしちゃってもいいよ、
オジサン達が全部飲んであげるから」
「ですなぁ！　目の前でそんな恥ずかしい姿を
見れるなんて、最高ですなぁ！」
私の思うことをまるで言い当てるように
オジサマたちが話すのを聞いて
益々その衝動がこみ上げてくる。
「ふぁ、あはぁんっ！　うっ、嬉しいです❤❤❤❤
私も、殿方のおチンポ汁、
全部飲んで差し上げます❤❤　くうぅぅんっ！」
エッチな妄想が一杯沸き起こって…、
バイブを咥え込んだお尻が勝手にクネクネ動いて……
やだっ…止められない！
ぴくっ
ブルッ
キュンッ
ぴくっ
ヴイィィィィィィィィン!!!!!!!!
ぴくんっ

「モモちゃん、こっちの穴にもチンポブチ込んであげるよ！」
ずぶ……ぐりゅ……ずるるるっ！

んほおおおおおおお…♥

ゾクゾクッ♥

ピクピク♥

ピクン♥

ウィィィィィン!!!!

バイブの快感に悶えているうちに、
殿方の手がお尻をしっかりと掴まえ、
お尻の穴におチンポが押し付けられて…
くああっ…奥までくるぅぅ❤❤❤❤❤

ひぁぁぁ♥
イイッ♥

パンッ
パンッ

グッ！ グチずぶぶぶっ！
「くはぁぁぁんっ！ お尻とオマンコ、両方気持ちいいですっ！
動いてぇ！ お尻の中、一杯掻き回して下さいぃ！」

びゅくん♥

「まったく淫乱な子だなぁ。
モモちゃんのウンチ穴、
たっぷり犯して上げるからね！」

ズリッ♥
ズリッ♥
ガクガク

オジサマのおチンポが、お尻の中でズルズル動き始める。
それはもう、堪らない快感が押し寄せて……あふぅぅぅンッ！

「くぅ！　モモちゃんの肛門、凄い締め付けだ。出すよ！　モモちゃんもイッちまいな！」
どくどくどびゅるるっ、どぷっ、どぷっ、ずびゅるるるるっ！
「ふあぁぁ！　イキますっ！　あぁぁんっ！　イクッ、イクぅぅ、出ちゃうぅぅ！」

オマンコをバイブに掻き回され、お尻の穴をおチンポでじっくりとピストンされながら、射精を繰り返す。気持ち良すぎて、何も考えられなくなっちゃう、お尻、いいぃッ！

ぷしいいっ！　ぷしゃぁぁぁぁ～ッ！　しゃぱぁぁぁぁぁ～ッ！
「あぁはぁぁぁ❤❤❤　アナル射精されながらじゅぶじゅぷぅっ、いいいぐぅ❤❤」
オシッコ噴き出しながら、イクの、き…気持ちいい……

目の前には、ボッキしたおチンポがよりどりみどり、殿方の臭いがムンムン漂ってきて、身体が疼きます
「あはぁぁ、たくましいおチンポがいっぱい……」
「モモちゃんのお顔、オジサン達のチンポ汁でお化粧してあげるからね」
「お顔だけじゃなくって、オッパイも……身体中、おチンポ汁まみれにして欲しいです」
「その声も、もの欲しげな表情も堪らないねぇ。お望み通り、ドロドロに汚してあげるよ！」
ああ、おチンポ汁……欲しい、一杯浴びて、味わいたい…
ん…ふぁぁ…
ああ…オチンポ汁
ビクッ！
ハッ
ヒクヒクッ！
ニチャ…
ドロ…
ぷくっ
ぶるっ
ぷくっん
キュン
キュン

どぴゅどぴゅぶちゅびちゃびちゃぶじゅるるるるるうぅぅ～ッ！
限界に達したおチンポが、ビクビクと脈動しおチンポ汁が発射される……　私の身体へこってりとした生暖かくいやらしい汁がこびりついてくる。
「ぷぁ、あぁぁんっ！　凄い勢い……熱いドロドロがいっぱい……　んぁぁ、もっとぉ、もっとかけて下さいぃ」
「モモちゃんみたいな淫乱エロ美少女が相手なら、いくらでも射精できるよ！　身体の中も外も、チンポ汁でグッチャグチャにしてあげるからね！」
「うれしい……んぷ……じゅるっ……はぁぁ、おチンポ汁、美味しいです」
ドプドプと吐きかけられる熱いザーメンを、はしたない音を立ててすすり込む私のオマンコに、オジサマのおチンポが……そのまま私は甘美に満ちた快楽行為に身を委ねていくのだった。

ペタンコなオッパイでも興奮する男が意外と多いことを知ったあたしは、貧乳マニアの男どもをホテルに誘い、目隠し誘惑プレイで楽しむことにした。
「そっ、挿入すんのはNGだけど、それ以外は……なっ、何したっていいぜ！」
フリッ♥
フリッ♥
フル…
「うひょぉ！　マジで？」「ナナちゃんのスリムなボディをオカズにできるなんて……夢みたいだよ、ハァハァハァハァ」
ハー♥
ハー♥
フル…
「みっ、見るだけじゃなくって、ちょっとだけなら触ってもいいんだからな！でも、ちょっとだけだぞ！」
あたしのハダカを見ながら、周囲でハァハァ言ってる男たちを挑発してみるけど誰も身体に触れてこない……ちょっとだけ焦れる

ようやく男たちが近づいてくる気配……
オッパイに熱い鼻息が当たって……
あぁっ！　吸われるッ！
「ちゅっ、ちゅぱ……ちゅっちゅっちゅっ……
はぁぁ、貧乳オッパイ可愛いよぉ」
「おおお！　いいな！　早く俺にも触らせろよ！
ハァハァ…」
「んぁ！　んんんッ！
そっ、その程度しかできないのかよ！　あんッ！」
「こういうソフトタッチの焦らしがいいんじゃないか。
ほら、ちっちゃな乳首がピンピンにボッキしてきたよ」
「ウヒョォォォォ！　ナナちゃん感じてきてる？
俺も可愛いオッパイレロレロしてぇ！！」
フリッ♥
ピク
ピクッ！
フリッ♥
ピクッ！
ひゃうっ！
ハー♥
ちょ…ンンンッ！
ハーッ♥
チュプッ♥
チュッ♥
んんっ！　こいつら口ばっかりで…。
もっと、もっとハードに責められると思ってたのに、
こんなのじゃ生殺しだよ！

「スリムな身体をクネクネさせて感じてるナナちゃん、超エロいよ！　ハァハァハァ」
「やべぇ…、俺はもう辛抱たまらねぇよ…先に手コキで抜くしかないわー」
ジジジジジジ…、カチャカチャ…
「おっ、おいっ！　もう止めちまうのかよ！ンッ……んんっ！」
乳首だけをちょっと吸っただけで愛撫を止めた男たちは、あたしのハダカを見ながらオナニーし始めたみたいだ……部屋に響く男の喘ぎと、チンポの臭いで、あたしまで興奮してくるッ！
フリッ♪
フリッ♥
…なに？
フルッ
フルッ。
ハッ♥
ハッ♥
えっ？こっ、こらぁ…ああ…？
ピクッ。
「ナナちゃんの身体、赤みを増してしっとり汗ばんできたよ。ますますエロいね！」
「うっ、うるさいッ！自分たちだけ気持ち良くなって、あたしは放置かよッ！」
素直に愛撫をおねだりできないあたしであったが、何もされていないのに、身体がどんどん火照ってくる

「ナナちゃんの貧乳ボディに、チンポ汁ぶっかけるよ！」
どぷどぷどぷどぴゅるるるるっ！
びゅううっ、びちゃびちゃびちゃぁぁ！

あたしのハダカを見ながらオナニー
絶頂した男の熱くて臭いチンポ汁が、身体中に降り注ぐ

「ふぁぁぁ！　アッ、えっ!?
どっ、どうしてあたしまで!?　イッ、イクうぅぅッ！」

ぷしいいっ！　ぷしゃぁぁぁっ！
「んああっ❤　イクッ❤❤　イイクッ❤❤❤
なんでぇ！　とまらなっ…イイ❤❤」

「おお！　ナナちゃんイってる？　精子浴びて、イキまくってる！」
「俺らの精子でイっちゃってる！　実は準備万端？　うおおっ！
ナナちゃんに挿入してぇ！けど、約束だもんなぁ…」

身体中にぶっかけられるザーメンを浴びた瞬間、
あたしもイッちゃった。
律儀に約束をしっかり守る彼らにイカされるなんて…
ちょっと悔しいけど……気持ちいい❤❤

後日

この前の目隠しプレイが意外と良かったので、今日も再挑戦。
でも、今回はこの前と違って、あたしが攻める番

「今日の犠牲者は、お前に決定！
んは……凄いチンポの臭い……
もう、ギンギンにボッキしてるんだな？」

「はっ、はイッ！
ナナさんにフェラチオしてもらえる喜びで、
チンポ破裂しそうです！」

「バカ！
まだ、しゃぶってやるって決めたわけじゃ、
なっ、無いんだからな！」

一秒でも早くチンポにむしゃぶりつきたいのをガマンして、
あたしは焦らしプレイを楽しんでいる。
チンポの熱気と臭いが顔に伝わってきて、
頭がクラクラしそう…。

言葉責めでさんざん焦らしてから、
あたしはようやくチンポを咥えてやることにした。
目隠しで視界が遮られているので、
どんなチンポなのか、咥えてみるまで判らない。
「くっ、咥えてやるから、目一杯ガマンするんだぞ！
あむ……んふ、ちゅぱちゅぱちゅぱ」
「くはぁぁ！　ナナさんのフェラ、気持ち良すぎます！
あぁぁ、舌が亀頭にヌロヌロ絡みついてきて……
チンポ融けそうッ！」
「ちゅぽっ……あたしがいいって言うまで、
射精禁止だからな！
あむ、んぐんぐんぐ……じゅぽじゅぽじゅぽッ！」
レロォ♥
フル
フル
むぐ…んんぷっ！
フーン♥
チュッ♥
ンッンッ♥
ビクッ
ビクッ！
ビクビク
んっ…
口の中でビクビク震えるチンポを責め立てながら、
あたしの身体もどんどん欲情していく。
舐めしゃぶっていたチンポが口の中で張り詰め、
ブルブル震え始めた。
もう、ガマンの限界みたいだな……。
「んぐ……ふはぁ……出しても……いいぜ……
んぐっ、じゅぶじゅぶじゅぶずちゅるるっ！」
「くあぁぁぁ！　イキますっ！
ナナさんのお口の中で、射精しますッ！」

どくどくどくずびゅるるるるっ！
どびゅるるるるるるるっ！　どぶどぶどぶぅぅっ！
「んふぅぅん！　んくんくんくんく……ゴクッ、ゴクンッ！」
口の中にぶちまけられる熱いドロドロのチンポ汁を吸い取りながら、
あたしはお尻が勝手にクネクネ揺れてしまうのを止められないでいると…
ヒク
ヒク
グプッ
ドプッ
びくん♥
んふぅ
んんん♥
んんっ!?
ビクビク…
ビクッ…

「ナナちゃん、可愛いヒップをそんなに振り振りして、もしかして誘ってるのかな？うわぁ、もうトロトロのヌレヌレじゃないか！」

口内射精の終わったチンポを舐めて味わっていたあたしのアソコを、誰かがクパッ！と大きく割り開いて覗き込んでくる。

「ふぁぁぁ！　アッ、えっ!?どっ、どうしてあたしまで!?　イッ、イクうううッ！」

「ひゃうんっ！　やっ、やめろよぉ……アッ、やっ、あぁぁぁ～ンッ！」

はおっおお♥

だめっ…やめっんんん♥

びくん♥

ぴくん…

ヒクッ…

グニッ♥

ヒク

くぱぁ♥

プシッ！

プシッ！

ヒク

ビュビュッ！

ぷしいいいいい～ッ！ぷしゃぁぁぁぁぁ～ッ！

絶頂と同時に、ガマンしていたオシッコが噴出して、覗き込んでいた男の顔をぐっしょりと濡らしていく

「ナナちゃんの聖水、いただきます！んぐじゅぱじゅぱじゅぱっ！」

「ひゅぐぅぅ！　だめぇ…、そんな恥ずかしいの…やめっ…んんんっ♥♥♥♥」

恥ずかしさと快感に震えながら、あたしはオシッコまで飲んでくれる男に激しく欲情していた

「ナナちゃん、オシッコ漏らしちゃうほど感じてたんだ？
それじゃあ、攻守交代してもいいかな？」
今日はあたしがリードしてやろうと思ってたのに、
余裕がないのがバレちゃった。
でも、素直におねだりなんか、してやらないんだからな！
ん…あっ♥
ああぁ…ふぁぁ…♥
ピク！
ハーッ
ハーッ
ヒク
ヒク
プピュ…
「ちっ、ちがうッ！
いきなりアソコを開かれたから、ビックリしただけだよッ！
もうこうなったら、
お前等のチンポ、全部責めてやるッ！」
ああ、言っちゃった！
今日は泣き入れるまで
一本のチンポだけ責めてやるつもりだったのに、
全部相手にするなんて……
でも、凄くドキドキする、
片っ端からしゃぶり倒してやるッ！
ブピュッ

パチュン♥
ズブブブ…♥ グチっ！ グチュ♥♥ パチュン♥♥♥
「ナナちゃんのオマンコ、凄く良く締まるよ……
入り口と真ん中と奥で三段締めだ！
随分鍛えてるんだね？」
目隠しプレイの三発目は、乱交……
どんどん深みにはまってる気がするけど、
気持ちいいから、まぁ、いいか！？
ブルルッ
レロ…チュッ♥
パンッ
ハーッ♥
シュッ
ぴんっ♥
ハッ♥
シコ
コス
んふっ…♥ んんっ♥
「んは、ちゅぱ、うっ、運動が得意なだけだよ、
恥ずかしい解説してないで、もっと動けよ！」
誰のか判らないチンポをしゃぶりながら、
あたしはオマンコを掻き回している男に文句を言う。
相手にしてる相手の顔も判らないセックスって、
背徳的で興奮する！

「んふんふんふ、ちゅぱちゅぱちゅぱッ！」
オマンコでピストンしているチンポを締め付けながら、
口にくわえた亀頭を吸い上げ、先端のワレメを舐め回して責め立てる
「すっ、凄い攻撃的なフェラチオだ！」
「オマンコの締めつけも凄いよ！　チンポを吸い込まれそうだ！」
パチュン♥
パンッ
ぷしっ♥
ブルルッ
んんっ!?
ハッ♥
チュプ♥
フーッ♥
チュ♥
んぷっ…
んんんっ♥
二人の男がそろって情けない声を上げるのを聞きながら、
あたしは更にハードな責めで主導権を奪う。
今日はずっとあたしのターンだからな！
何回でも射精、させてやる！

「ナナちゃんっ！　出るッ、出るよッ！」
口とオマンコの中で、二本のチンポがビクビクと脈動し始める
キュン♥
キュン♥
ビュビュッ！
ずびゅるるるっ！　どぶどぶびゅろろおぉぉぉ～ッ！
どくどくどびゅるるるっ！
ピッ！
ドクドクッ！
びくん♥
グプッ
ドプッ
ヒクヒク
んっ!?
んぐぅっ…んんん♥
「んぐんぐんぐ……んふぅぅぅ……んっんっゴクゴクゴクンッ！」
あたしは、子宮に弾けるチンポ汁の感触に酔いしれながら、
口内射精された濃いザーメンを味わいながら呑み込んでゆく。
まずは二本撃沈、まだまだ搾ってやるからな！

「ちゅぱ……んはぁぁ。美味しかったよ。
オマンコも気持ち良かった……。他の連中も、
同じ目に遭わせてやるからな！」
一滴残らず吸い取ったチンポから口を離したあたしは、
はしたない舌なめずりをしながら、順番待ちの男たちを煽る。

「望むところですよ、ナナさんッ！」
「オレたちみんな、ナナさんの下僕ですから！」

「フフッ、嬉しいこと言ってくれるね。
じゃあ、みんなのチンポミルク、
一滴残らずあたしが搾り出して上げるよ」

すっかり責めモードになったあたしに、
欲情した男たちのチンポが殺到し…
その後、
どうなったかはあまりの快楽で記憶が飛んでしまっていた…。

びくん♥
はむ…美味し…♥
…んん♥
ブー♥
ジュッ♥
ヒク
ヒク

数日後

オマンコの中にバイブを挿入したままの羞恥散歩。

ホテルの部屋まで、あと少し……、ひゅんっ❤

あぁ、バイブの震えがオマンコ全体を包み込んで、イキそう！　でも、ガマンッ！

「はぁぁ、やっと、部屋に着いた……もぉ、このバイブ容赦なさ過ぎ！
途中で何度もイッちゃいそうになったよ！　ほら見てよ、グッチャグチャ！」
んっ…♥
あっ♥
あぁ…♥
ハァ♥
ハァ♥
フルフル…
スス…
ゾクゾク…
キュン♥
ぴくぴく…
ぐしょ濡れになった股間を見せつけて文句を言いながらも、
あたしは羞恥散歩の道中を思い出して胸をときめかせている。
世の中には、こんなにスリリングで気持ちいいことがあったんだな……。

「バイブをズッポリ呑み込んだ、制服姿のナナさん…すげぇ…ハァハァ」
「超フェティッシュでエロいですよ！　見てるだけでもぉ、俺のチンポは爆発寸前！」
文句を言うあたしに謝りもせず、男たちはオナニーを始める。魔の前で扱かれるチンポの群れに、視線が釘付けになり、バイブを咥え込んだままのオマンコが疼く
そんな…♥
いいのか…ねぇ…♥
「なっ、なにやってんだよ自分たちばかり！　そんなにあたしのぐしょ濡れ姿がいいのか！？」
あたしの股間を凝視しながら、男たちのオナニーはどんどん激しくなっていく。それを見せつけられたあたしの身体も、燃え上がりそうに昂ぶっていた。
「いいですっ！　ボーイッシュな性格のナナさんが好きです！」「バイブ咥え込んだまま、オレたちを罵ってくれる、マジ、神っす！　エロ女神様っす！」
ピュッ♥
プシッ♥
キュン♥
ピクピク…
ジク
ジク…
ブル
ブル…

ヴヴウゥィィィィィィ〜ンンッ
男たちのオナニーを見守っているあたしのオマンコで、バイブが振動し続けている。
ヤバい……あたし、もうイッちゃいそう……。
んんんっ…♥
ビク!
ヴヴウゥゥ…
ビクッ!
ひぁぁぁ♥イッ♥
「くっ、んんっ、お前等が勝手にオナニーするなら、あたしも……勝手にイかせてもらうからなッ！
イっ、イクっ♥
イクッ♥♥♥きゅふぅ……んんんん〜ッ♥♥♥」
ビクッ!
ビクンッ!
ビシャッ♥
ピクピク…
キュン♥
ピュピュッ♥
ビクッ!
プッ！プシッ！　プシャァァァァァァァ！
あくまでもツンツンした態度を崩さぬように意地を張ったあたしは、バイブアクメに身を震わせる。
見られてるだけじゃなくってハードに責められたい……
でも、絶対におねだりはしてやらない！

「んは……ハァハァハァハァ……もう、こんなの……捨ててやるッ！」

絶頂の余韻に喘ぎながら、あたしはぐしょ濡れになった下着を脱ぎ捨て、バイブを引き抜く。脱いだ下着とバイブに男どもが群がって奪い合うのを醒めた目で見つめた

「イッてるときのナナちゃんの顔、エロかったよ」

「そっ、そう思うんなら、もっとケダモノっぽく責めて来いよ……あ、オシッコ……オシッコ出そう……ここで出したら、お前たちはどうする？」

「もちろんみんなで飲みますっ！」

予想通りの答えを叫んだ変態男どもを蔑みの視線で見つめながら、あたしは放尿を見せつけるべく、下腹にジワジワと力を込めてゆく。

「んんっ！　出る……よっ、オシッコ出るから……くうぅぅんんん～ッ！」

ちょろっ、ちょろろっ……ぷしいっ！
ぷしゃぁぁぁぁぁ～ッ！　しゃぱぱぱぱぱぱぁぁぁぁ～ッ！

「んは、はんっ！　お前らって、ホントに変態なんだな……」

オシッコでぐしょ濡れになるのも構わず、
舌を突き出して受け止める男たちを罵りながら、
あたしはゾクゾクするような悦びを感じていた。

あぁ…♥
でてるぅぅ…♥
んんっ…♥
ゾクゾク
フルフル
ピクピク…
キュン♥
ピク…♥
シュワァァァァァ…♥♥♥

「さっ、さあ、オシッコのお返し……ブッカケてもいいんだぞ」
期待に身を震わせながら、あたしは男たちを挑発する

「はっ、はいっ！　オレたちのザーメンシャワーで、
ナナ様のオマンコを洗わせて頂きますッ！」
「おおおっ！　精子ぶっかけます！」
「俺も俺も！　うおぉ！！！！
ナナさん！　ナナさん！！　でるっ！　でるっ！」

どびゅるるるるるるるるうぅぅぅ～ッ！
びしゃびしゃびしゃびちゃぁぁぁ！
ぶじゅぐじゅずちゅずびゅろろろろろろぉぉぉぉ～ッ！

「んは！　あはぁぁんっ！　凄い量……。
今度は、中にも一杯注ぎ込んで……」

んんんッ…♥

ビュッ!!!

ビクッ！ビクッ！

ブルッ！ビク…♥

キュン♥

キュン♥

ビクビク…♥♥♥

ドプドプ…

「今日もお許しがでたぞ！
今日の一番オマンコは是非俺が！」
「おいおい！　ずりぃ！
これはみんなに許可してくれたんだから公平にだな…」

こんなに…すごっ…♥

フルフル…

ハァ♥

ハァ♥

ハァ…

ゾクゾク…

ザーメンまみれのお尻をくねらせて誘惑すると、男たちはようやくケダモノの本性をあらわして
あたしの身体に群がってきた。
今夜は何回絶頂するのかな？
新記録、狙ってみるか？

くそぉ！　ダメなことだって判ってるのに、女の快感が忘れられなくて……
あぁ、アソコに突っ込まれてるローターが、動いてないのに、既に気持ちいいっ！
オレ、このまま淫乱な女になってしまうのか!?

ビク！

「リコちゃん、振動してないローター突っ込まれただけで、
オマンコヌレヌレだねぇ。
目隠しすると、
オマンコの感度が上がって、余計に気持ちいいよね？」

ブッ♥

この男の言うとおりだ……アソコの入り口が、
ローターをしゃぶるみたいに蠢いて……
奥の方でうねってるのは、子宮……なのか？
オレ、身体の中まで完全に女になってるッ！

トロトロ…

プピュ♥

ピクン！

「リコちゃんの身体は、
ホントにエロいよねぇ。
　オッパイもお尻も弾力たっぷりで、
太股もムッチリスベスベだな。
お尻の穴も可愛いねぇ」

なでなで…

あぁっ♥あぅ…

なに…♥

ハァ♥

ハァ♥

ひぁぁ！
オレ、ホントは男なのに、
男に身体中を撫で回されて……
ゾワゾワッて感じてるッ！
あぁぁ、濡れちゃうッ！

ビイィィィィィィィィィ～ンンッ！！
ヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴ…
ピピッ♥
ピュッ♥
プッ♥
「うわ！　あぁぁぁぁぁッ！
あっあっ、はぁあぁぁぁぁぁうぅぅぅ～ンンッ！！」
震えてるッ！　ローターの振動が、
奥の方までビリビリ伝わって……
きっ、気持ち良すぎて、エッチな声が止まらないッ！
ビクッ！
ビクンッ！
「凄い反応だね、
身体中がビクビク痙攣してるよ、
オマンコも大洪水じゃないか。
もっと激しく振動させてあげるよ！」
なで
なで…
なに…♥
あぁっ♥
あぅ…

「はぁぁぁぁんんっ！
すっ、凄いッ！　ダメだぁぁ、
もっ、もう……ガマン……できないいッ！」

「ガマンしなくていいんだよ。
派手にアクメしちまいなッ！」

ビビビビビビブウゥゥゥゥゥゥ～ンンンンンッ！
「ふわぁぁぁぁぁぁぁ！
イクッ、イクイクイクうううッ！
うわぁぁぁぁ～ンンッ！」

ぷしいっ！　ぷしゅるるっ！
ぴしゅっ、ぴしゅっ、ぷしゅるるっ！
あっ、あぁぁっ、オレ、イッてる！
潮噴きしてるッ！　きもち、いいッ！

数時間後

ドプッ！プピッ！ププッ！
「ひぁ！　あっアッあんッ！　すご……イッ！
奥に当たってるッ！　オレの子宮に当たってるうぅ！」

パンッ
ドプッ
プッ♥
ドピュッ！
パチュ

「もう、何発目だよお前…いくらなんでも、
お前独りで楽しみすぎだろ？」
「ああん？　まだまだ出したりねぇくらいだよ。
お前なんか直ぐにいっちまってよぉ～。」
「うるせぇ！　…確かにリコちゃん最高だよな！」

「リコちゃんは、ムッチリエロエロボディなのに、
ボーイッシュ口調のオレっ娘ってのがポイント高いよなぁ。
そおら、また中出しイクぞッ！」

プシャアアア…
プルッ♥

どびゅるるるうっ！　ずびゅるるっ、
どくどくどくどぶどぶどぶうぅぅッ！
「くぁ！　あはぁぁぁぁ～ンンッ！」

オレ……一体何度中出しされたんだ？
イキすぎて頭の中グチャグチャになってて、
もう、何が何だか判らない……

イイッ！んんんあぁ♥
ビクビクッ♥
ビクン
ぴくん♥
キュン♥
なで
なで…
ひぎ…イクっ…♥
は～ぁ♥
ハ～ァ♥

「あああ、また、イクッ、イクウゥゥ～ッ！」
自分の喘ぎすら遠くにある錯覚に陥るほど
快楽にのみ込まれていくのだった…。

もう、ここで情事は何度目だろう…
ミカドが留守の時にこの部屋で疼きのまま行為にふけってしまうのは…。

「ハァハァハァハァ……先生のボディ、オッパイもオマンコも凄いよ。」
「ねえ、もっと姦ってもいいよね？
嫌だって言っても、犯しちゃうけど！」

ブルン♥
ビクッ！
あはっ……♥
はーい♥
ピク
ピクッ
レロン♥
ぎゅむむっ…♥
ピクッ！
ぃーっ♥
ああっ、あうっ♥
ぱっ♥
ぱんぱん…♥
ヒクッ♥
ヒクッ♥
ガンガン…

「はっ、はい。
もっと一杯先生の身体で楽しんでください。
その方が、先生も、ひぁ！ あんっ！
うっ、嬉しいですから……あぁんっ！」

地球の男の子たちは、生殖本能が強くて、
ちょっと誘惑しただけで貪るように私を求めてくれる……
これが、セックス……あぁ、気持ち良すぎて、
意識が飛んでしまいそう。

「オレ、先生のオマンコで筆下ろししてもらったんですよ。
これで何回目のセックスかなぁ？
オレ、ティアーユ先生一筋ですから！
いっ、行きますよぉ！」

パンッ！ビクッ！

たくましい生殖器が、
私の中にズブズブと挿入されてきて……
いっ、いきなり激しく動いて！
私、何人の男子の童貞を奪ったのかしら？
もう、覚えていないわ……

ドクドク！ビュッ！ビュッ！ビュッ！ドプッ！

「オレのチンポ？　オマンコが覚えてますか？
目隠ししてちゃ判らないか？
でも、
チンポ挿れただけでオレだって判ってもらえるぐらい、
先生を犯しちゃいますよッ！」

ぶちゅ！ビクビク

あぁっ!?

にーッ♥

ぢゅむむっ♥

ぐぐぐっ！

はーん♥

オレたっ♥きたぁ♥

ビクッ！

パンッ

ひぁっ！
こっ、この突き上げの激しさ……
奥の方でグリグリと旋回する動き……覚えてる。
顔は見えなくても、
身体が……オマンコが覚えてるわッ！

「出すよッ！
先生っ、先生の子宮に……オレの……せっ、精子ッ！」
どくどくどくど

（あはぁぁぁ、身体中に熱いザーメン粘液が降り注いで……
ピクピク脈動してるペニスが身体中に擦り付けられて……
あぁぁ、お尻の穴にもチンポが入って来るぅ！
もっと、もっと激しく犯してえぇぇ！）

フル…
ハァ♥
フル…
ハッ♥
ヒク
ヒク

ふぁぁ…
あっ♥
ハー♥
ハー♥
ゲッ
グッ
キュン♥
キュン♥

ひあっ♥
ああっ♥
あんっ♥ あああ…
ブビッ
ドクッ
ドプッ

ひゃぐ…♪
フル…
フル…
ああっ…
ふぁす…

ブル…
ハーハー
ハーハー
ブル…
あぁ…！
してぇ…

きたぁ♥んっ♥♥
ビクッ！
ぬぷぷぷぷっ…
クリッ♥
ブルブルっ！
フル
フル

んあぁぁ!!!
ひぐっ
ヒクッ
ヒクッ!
パチュン♥
パンッ
チュッ♥
チュッ♥
ぐちゅ♥
ぐぷっ!
ハッ♥

ぷくっん♥
ブピッ♥
ブルッ♥
ひぐっ♥
んきゅうっっっ♥
ドプッ ドプッ
ハァァ♥
ハッ♥
んんぐぅ♥
ぷくっん

んあっ♪
ヒクヒク
フー♪
ぷくん♪
おちんぽぉ…♪
ンッンッ♪
ヒクッ
ピクッ！

あんんっ!!!!
おしりぃ!!
ビクッ!
ヴヴヴ

はむ…んぷっ♥
むぐっ…んぷっ…んん♥
ヒクヒク
ブー♥
ブッ♥
ブッ♥
ムグッ
プッ
ぷくん♥

ヴヴヴ

びくん♥
ビクビク
んんっ!?
んぷっ?…
んんんぷっ♥
ドクッ
ドクッ

むぐっ…んんぷっ！
んんっ…
ビクッ！
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ
ブジュッ！
ピッ!!
ペッ！

ハァ♥
ハァ♥
フル…
フル…
フリッ♥
プリン♥
ヒク
ヒク

ハァ♥
ハァ♥
フル…
フル…
んんっ♥
そっち…じゃ…
ヒク
ヒク

ビクッ…
そうですっ
ああ…
あっ♥
ハー♥
ハー♥
ピクン…
ヒク
ヒク

ビクンッ!
ハァ♥
ハァ♥
ビクッ
んあ…っ♥
硬いの♥
あたって…♥
ぐいっ
ぐにっ
ぐぐっ♥

ビクッ!
ハーハー
ハーハー
ビクッ!
あぁ♡はいっ…♡
硬いの…きたぁ…っ♡
パンッ
パンッ

ピクン！
ハーハー
ハーハー
ビクビク！
んあっ♡
ああっ♡あんっ♡あああ…
ブピッ
ブプッ
ドクッ

ハー♥
ハー♥
ビクン！
ビクビク！
ああっ♥
あんっ♥
ああ…
いっぱいい…♥
プッ♥
ブピュ♥
トロトロ…♥

ハーイ♥
ハーイ♥
ヒク
ヒク

ハーハー
ンッンッ
ハーハー
んんあぁぁっ
ヒクッ…
ヒクッ…

ぶるんっ
ひゃぐぅ…♪
ハッ♥
ソッ♥
くっ…っっっ♥
ハッ♥
ズクズクッ…
キュン♥
パンッ
パンッ
ポクン♥

きゅうっ…♥
ぷるっ♥
はぇ♥
ハーッ♥
んんんっっ♥
ひくッ♥
ぴくっ
ぶるるッ♥
ぷしゃあああ…

ああ…♥
フー♥
ハー♥
んっ…♥
ピクン♥…
ビクビクッ…

ビクッ
ふぁぁぁ…
ああ…
みられてる…
ヒクッ
ヒクヒク…
プリン
ブルッ

ぴくんっ♡
ハッ♡
ハッ♡
んぁんっ!
あっ♡
ピュ
ぴくっ♡
ぴくっ♡
むにゅっ♡
グニッ♡
ズぷっ
ズズッ

んんっ!?
んぷっ…
んんんん♥
ドプッ
ドプッ
びくん♥
ひくひく

んんっ…♡
あへぁ♡
ああ…♡
ハー♡
ハー♡
ヘル ヘル…
キュン
ピクン
ピクン ピクン
プク…
フリ♡
フリ♡
ゾクゾク…

てぁっ♪
んんかかぁ♪
ぴくっ♪
ブルッ♪
キュンッ♪
ぴくぴくっ♪
ヴィィィィィィィィン!!!!!!!
はぁぁ♪
ぴくんっ♪

んほおおおおおおお…♥
ゾクゾクッ…
ひぁぁぁ♥イッ♥
パンッ
パンッ
ぴくぴく♥
ぴくぴく♥
びゅくん♥
ウィィィィィィン!!!!
ガクガク
ガクガク

んあひっ♥
らめっ♥
いいい
あぁあっ♥
ゾクゾクッ！
どぷっ
トゥるぷっ
ぁ゛ぁゆっ
ドクッ
ドクッ
プシャァ♥
プシッ♥
がクがク…
ビクッ
ビクッ
びくんっ♥
どくどくっ

ぷくっ♪
ホカ…
ニチャ…
おわっ…
ビクッ!
ヒク
ヒクッ!
ハッ
ハッ♪
チュプ…
ん…♪ふぁあ…♪
ああ…オチ○ポおお♪♪
キュン♪
キュン♪
ブルッ♪
ぷくっん♪

ぴくっ♥
もわっ…
むわっ…
ヒクっ！
ハーッ
ハー♥
ブピュッ！
あ、うあ…♥
あぁ…いい…♥
ぴくんっ♥
ドロ…♥
プルッ♥

フリッ♥
フリッん♥
ハーハー♥
ハーハー♥
ハ♥…
ハ♥…

フリュ
ピク!!
ひゃうっ!
ハー♥
ちょ…ソソソッ!
ハッ♥
フリュ♥
ピク
チュプッ♥
チュッ♥
ピクッ!

フリッ♪
フリッ♥
フル
…なに？
フルッ。
ハッ♥
ハッ♥
えっ？
こっちも…
ああ…？
ピクッ。
ジュブ
ジュブ

んぁ♥
ビクッ
ドプッ
ああっ
あんっ♥♥
あぁぁ……
ビクッ
ブピッ
プピュ…
プピッ
ドプッ

目の前に…んっ…
ハッ♥
フル
臭っ…
ピクン
フル
ハッ♥
ハッハッ♥
ピクッ
ピクッ

むぐ…んんぷっ！
フルフル
フルフル
レロォ♥
チュッ♥
ソッソッ♥
ビクビク
んっ…
ピクッ！
ビクッ

びくん♥
ヒク
グプッ
ドプッ
ヒク
んんっ!?
ビクビク…
ピクッ…
んぷ…
んんん♥

だめっ…やめっんんん♥
グニッ♥
ヒク
くぱぁ♥
プシュッ!
プシュッ!
ヒクビュビュッ!
はおっおお♥
びくん♥
ヒクッ…
ぴくん…

ん…あっ♥
ああぁ…ふぁぁ…♥
ピク…!
ハーッ
ハーッ
ヒク
ヒク
プピュ…
ブピュッ

パチュン♥
ブルルッ
レロ…チュッ♥
んふっ…んんっ♥
パンッ
ハーッ♥
ハッ♥
シュッ
シコ
ぴんっ♥
コス

パチュン♥
ブルルッ
んんっ!?
ハッ♥
チュプ♥
パンッ
ぷしっ♥
ん…ぷっ…んんんっ♥
フーッ♥
チュ♥

んっ!?
んぐぅっ…んんんん♥
キュン♥
キュン♥
ビュビュッ!
ピッ!
ドクドクッ!
びくん♥
グプッ
ドプッ
ヒクヒク

びくん♥
はむ…美味し…♥
…んん♥
ブー♥
ジュッ♥
ヒク
ヒク

あっ♥あぁ…♥
んっ…♥
ハァ♥
ハァ♥
フルフル…
スス…
ゾクゾクゾク…
キュン♥
ピクピクピク…

そんな…♥
いいのか…ねぇ…♥
ハー♥
ハー♥
フル
フル…
ピクピク…
ジク
ジク…
キュッ♥
プシュッ♥
ピュッ♥

んんんんっ…♥
ひぁぁぁぁ♥イイッ♥
ビクッ!
ビクッ!
ヴヴヴヴヴ…
ビクッ!
ビクンッ!
ビシャッ♥
ピクピク…
チュッ♥
ピュピュッ♥
ビクッ!

でちゃう…♥
でっ♥トん…♥
ああ…♥
ハーッ
ハーッ
ブルブル…
ビクビク…
ビクビク…♥
キュン♥
キュン♥
ビク…♥

あぁ…♥
でてるぅぅ…♥
んんっ…♥
ゾクゾク…
ピクピク…
キュン♥
キュン♥
ピク…♥
ジュワァァァァァ…♥♥♥

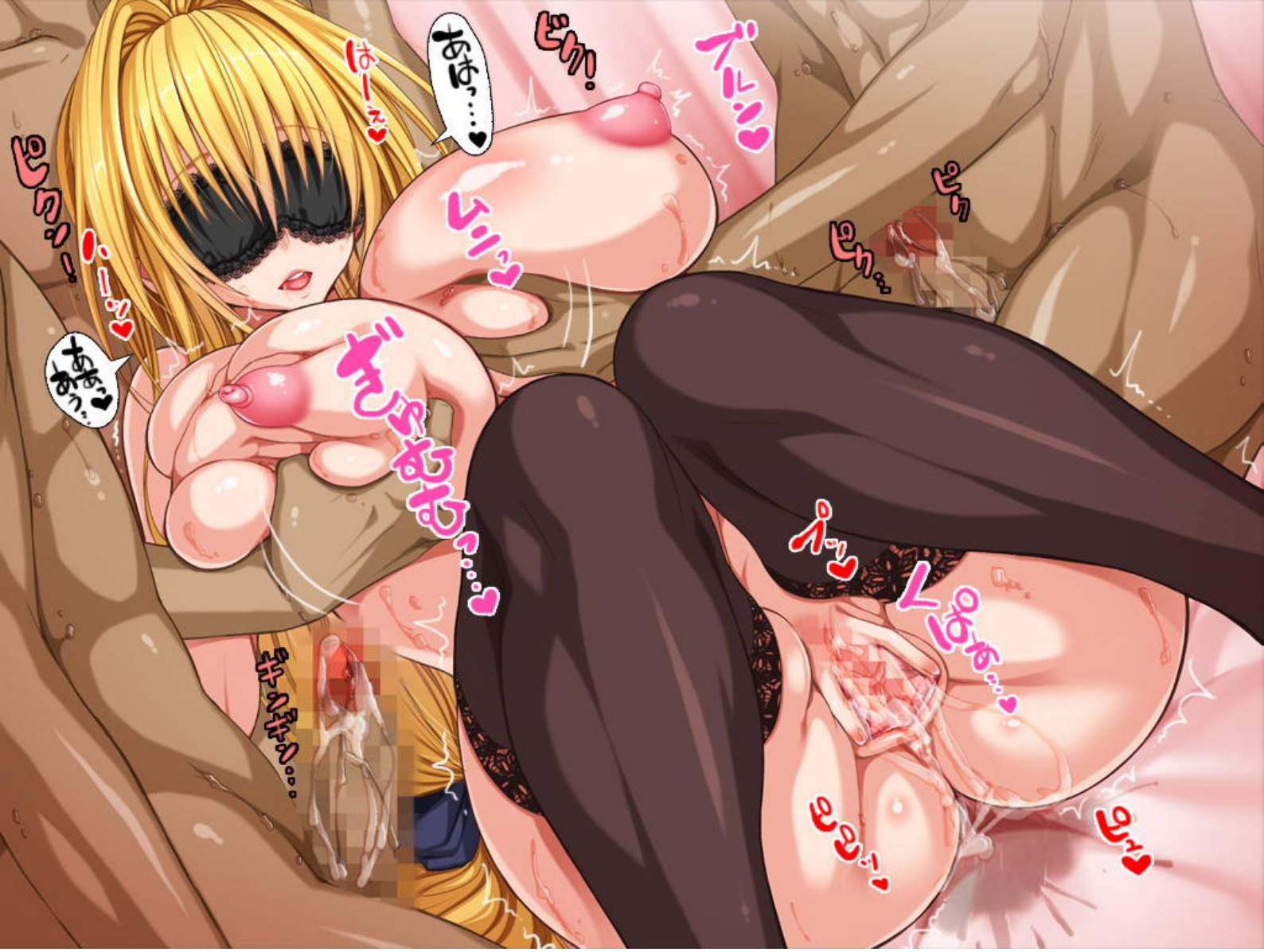
んんんッ…♥
フルフル…
ア♥
ア♥
こんなに…すごっ…♥
ヒクヒクッ！
ブルッ！
ピク…♥
キュン♥
キュン♥
ピクピク…♥♥♥
ドプドプ…
ズクズク…
ブシッ!!!

ビクッ!
ズチュ♥
ヒクッ!!
ヒクッ!!
ムチムチ♥
ムチ…
ムチュ…♥
ニヤ♥
ニヤ♥

ヴヴヴヴヴウウウウ…
ピピッ♥
ピュッ♥
プッ♥
ビク！
ビクン！
なで
なで…
なに…♥
あぁっ♥あう…

ヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴ…
プシャアアアア…
プッ♥
ぷるっん♥
プルッ♥
ぶるるッ♥
ぴぎぃぃン
キュィン
ピクッ♥
イッ！
イクっ…♥
んんんっっン

パンッ
ドプッ
プッ
ドピュッ！
パチュ
プシャアアアア…
プルッ
イイッ！んんんあぁ
ビクビクッ
ひぎ…イクっ…
ピクン
ぴくん
キュン
はーっ
ハーっ
なで
なで…


ブルン♥
ビクッ!
あはっ…♥
はーぇ♥
ピク
ピク…
ピクッ!
ぃーッ♥
ぁぁっ、ぁぅっ♥
ぎゅむむっ…♥
ぱっ
ぷるぷる…♥
ぷるっ♥
ぷるっ♥
ガンガン…

あぁっ!?
ぢゅむむっ♥
ぢゅむむっ♥
ぢゅむむっ♥

はーぇ♥
あはっ…♥
ビクッ。
あぁっ♥
あぅ…
ビクッ!
ブルン♥
ムニュ♥
ビクビク…
ぢゅむっ…
ギシギシ…
ドプッ
ビュッ♥
プシュ
ビュッ♥
ぶちゅっ!

はぁはぁ…♥
ぷりん♥
はーぃ♥
いっぱぃ♥あぁ…♥♥
ぷぴゅ！
ぎゅむむっ…♥
ぴくっ…
ぱっ♥
むにむに…
ぷぴゅっ！
ぴくっ…
ぷっ♥
ぴぴっ♥
ぷっ♥
くぱぁ…♥